

2019年度

事業報告

自：2019年4月 1日

至：2020年3月31日

公益財団法人 京都技術科学センター

2019年度事業報告

I 公益目的事業1（研究助成事業）

技術立国日本を支える科学技術の振興を図るため、若手研究者が行う研究開発に必要な経費を助成するとともに、次年度に助成対象とする研究開発テーマを募集し、選考した。

1 2019年度研究開発助成金の交付

平成30年度第2回定時理事会で決定した研究開発助成テーマについて、研究開発に必要な経費を助成した。

- (1) 名 称 2019年度研究開発助成金
 (2) 研究開発分野 ものづくりに資する基礎的・応用的研究であって、次の分野に属するもの
 ・材料技術・機械技術・電気電子技術
 (3) 助成テーマ 14テーマ（一覧表は下記のとおり：応募51テーマ）
 (4) 助成金総額 1,400万円
 (5) 研究期間 2019年4月から2020年3月まで 1年間
 (6) 研究成果 別添「研究助成成果報告書」のとおり

2019年度研究開発助成テーマ等一覧表

No.	研究開発助成テーマ	助成金交付対象者			助成額 (万円)
		所 属	役職等	氏 名	
1	準熔融表面の液相エピタキシャル結晶成長を応用したウェーハ表面微細加工技術の研究	鈴鹿工業高等専門学校 電気電子工学科	准教授 博士（材料科学）	西村 高志	100
2	精密 in situ トランスメタル化を鍵とするハロゲンダンスの制御	神戸大学大学院工学研究科 応用化学専攻	准教授 博士（薬学）	岡野健太郎	100
3	チタン酸ストロンチウム表面における磁気伝導層の開発	京都大学大学院工学研究科 電子工学専攻	助教 博士（工学）	大島 諒	100
4	キララせん高分子の効率的合成法の開拓と高機能化	京都大学大学院工学研究科 合成・生物化学専攻	助教 博士（工学）	山本 武司	100
5	らせんの分子ダイナミクスを用いたペプチド分子ナノワイヤ中の電子移動反応の高速化技術の開発	京都大学大学院工学研究科 材料化学専攻	助教 博士（工学）	宇治 広隆	100
6	二官能性ジアゾ化合物の縮重合による新規ポリ(アリーレンビニレン)の合成	愛媛大学大学院理工学研究科 物質生命工学専攻 応用化学コース	特任講師 博士（理学）	下元 浩晃	100

7	マイクロ空間での迅速な相転移を利用した単分散モノリス微粒子の連続調製とその構造制御	岡山大学大学院自然科学研究科応用化学専攻	助教 博士(工学)	渡邊 貴一	100
8	開殻性と芳香族性に基づくベルト状縮環炭化水素とその集合系の光・磁場応答制御の理論設計	大阪大学大学院基礎工学研究科	助教 博士(理学)	岸 亮平	100
9	機械刺激認識・学習性を有するソフトマテリアルの設計指針探求と創製	立命館大学生命科学部 応用化学科	助教 博士(工学)	久野 恭平	100
10	高濃度セルローズ/イオン液体系で発現する3次元構造の高度制御	同志社大学理工学部 機能分子生命化学科	准教授 博士(理学)	遠藤 太佳 嗣	100
11	誘電ジャンプ及び負の電歪効果を示す分子性誘電材の開発	大阪大学大学院理学研究科化学専攻	助教 博士(理学)	小島 達弘	100
12	積層半導体基板向け電気物性値抽出手法の開発	関西大学システム理工学部電気電子情報工学科	准教授 博士(工学)	佐藤 伸吾	100
13	燃料電池触媒の粒子形態・化学状態を同時評価可能とするその場 SAXS-XAS 計測手法の確立	(公財) 高輝度光科学研究センター	研究員 博士(工学)	渡邊 剛	100
14	芳香環増環反応によるピセン誘導体の網羅合成と有機エレクトロニクス材料への応用	岡山大学大学院自然科学研究科応用化学専攻	助教 博士(工学)	村井 征史	100

2 2020年度研究開発助成テーマの募集及び選考

2020年度に助成するテーマを募集し、研究助成選考委員会で選考の上、2019年度第2回定時理事会において決定した。

- (1) 助成対象者 北陸地方から中・四国地方までの地域にある理工学系の大学等に在籍する40歳未満の研究者
- (2) 研究開発分野 ものづくりに資する基礎的・応用的研究であって、次の分野に属するもの
・材料技術・機械技術・電気電子技術
- (3) 募集期間 2019年11月1日から2020年1月20日まで
- (4) 応募テーマ数 54テーマ
- (5) 助成テーマ数 13テーマ
- (6) 助成金総額 1,300万円
- (7) 研究助成選考委員会の開催状況

開催年月日	議 題
2020年2月22日	2020年度研究開発助成テーマの選考について

II 公益目的事業2（人材育成事業）

科学技術の振興を担う人材を育成する事業を行った。

1 技術セミナー

（1）ものづくり先端技術セミナー

ものづくり技術開発の高度化を促進することを目的に、先端技術シーズや研究開発の最前線の状況を紹介するセミナーを開催した。

ア 名称 2019年度ものづくり先端技術セミナー

イ 共催 公益財団法人京都技術科学センター
京都府中小企業技術センター

ウ 場所 京都府産業支援センター5階 研修室

エ 受講料 無料

オ 内容

	開催日・テーマ等	
第1回	日時 2019年9月30日（月） 14:00～16:30 テーマ 「バイオテンプレート技術～らせん藻類から微小金属コイルの量産とTHz電波吸収へ～」 講師 同志社大学ハリス理化学研究所教授 彌田 智一 氏 参加者 17名	
第2回	日時 2019年11月1日（金） 14:00～16:30 テーマ 「レーザ溶接部の材料学～基本から応用まで：高品質な接合を目指して～」 講師 大阪大学大学院工学研究科ビジネスエンジニアリング専攻 准教授 森 裕章 氏 参加者 21名	
第3回	日時 2019年11月29日（金） 13:30～16:00 テーマ 「触覚テクノロジー ～現象的な触覚の捉え方とその応用～」 講師 名古屋工業大学大学院准教授 田中 由浩 氏 参加者 37名	

備考 2020年3月12日（木）に開催を予定していた第4回セミナー（テーマ：「高分子材料のトライボロジー～基礎から最近の研究事例まで～」、講師：豊橋技術科学大学機械工学系准教授 竹市 嘉紀 氏）は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い中止した。

（2）マイクロ波・ミリ波セミナー

マイクロ波・ミリ波に関連した基礎知識や技術、製品の評価手法の向上を図ることを目的にセミナーを開催した。

ア 名称 2019年度マイクロ波・ミリ波セミナー

イ 共催 公益財団法人京都技術科学センター
京都府中小企業技術センター

ウ 場所 京都府産業支援センター5階 研修室

エ 受講料 無料

オ 内容

開催日・テーマ等	
第1回	日時 2019年10月30日(水) 13:30~16:30 テーマ 「5G / Beyond5G へ向けたミリ波・光波融合技術ーサッカースタジアムでの5G無線実験と今後の展開ー」 講師 三重大学大学院工学研究科電気電子工学専攻教授 村田 博司 氏 参加者 17名
第2回	日時 2020年1月28日(火) 13:30~16:30 テーマ 「見えない電波を視る技術」 講師 金沢大学理工研究域電子情報通信学系教授 八木谷 聡 氏 参加者 21名

2 技術研究会

(1) 品質工学研究会

昨今注目を浴びており、今後ますます無視できなくなる存在になるであろう AI/IoT 技術にスポットを当て、これらの技術の抱える品質問題についてのシンポジウムを関西品質工学研究会との共催で行った。

ア 名称	品質工学シンポジウム2019 in おおさか
イ 主催	関西品質工学研究会
ウ 共催	公益財団法人京都技術科学センター 中部、滋賀県、広島の各品質工学研究会
エ 開催時期	2019年10月4日(金) 10:00~17:00
オ 会場	CIVI 研修センター新大阪東 E5Hall (大阪市)
カ テーマ	「AI/IoT と品質工学の連携で社会問題/技術課題を解く」
キ 内容	基調講演、講演、研究発表、パネルディスカッション

項目	内容
基調講演	「AIによる品質・AIの品質 ～ソフトウェア工学観点からの動向紹介～」 国立情報学研究所准教授 石川 冬樹 氏
講演	「単位空間を動的に生成することによる、機械設備・プラント異常診断の精度向上」 ㈱IHI 茂木 悠佑 氏 「若い世代と品質工学を共有した30年間ー日本大学非常勤講師を終えてー」 長谷川技術士事務所 長谷川良子 氏 「人工知能の時代とMTシステム ～技術者はAIに職を奪われるのか?～」 アングルトライ㈱ 代表取締役 手島 昌一 氏
発表	「IoTの取組みで分かって来た技術課題の難しさ」 ㈱エクセディ 藪田 大輔 氏 「AI機械学習予測モデルのコンピュータ実験による量産プロセスの許容差設計」 ローム㈱ 山中 貴光 氏
パネル ディスカ ッション	「AI/IoT と品質工学の連携で社会問題/技術問題を解く」 (パネリスト) 国立情報学研究所准教授 石川 冬樹 氏 アングルトライ㈱代表取締役 手島 昌一 氏 ブラザー工業㈱(関西品質工学研究会幹事) 加藤 重己 氏 (司会) 三菱電機㈱(関西品質工学研究会会長) 鐵見 太郎 氏
講評	関西品質工学研究会顧問 原 和彦 氏

ク 参加人員 114名(研究会関係者58名、一般参加者46名ほか)

(2) 機械設計・計測技術研究会

設計技術者等を対象に、機械設計・製図に必要な基礎知識から機械部品等の形状評価を行う計測技術、さらには電気基礎技術まで学ぶ研究会を開催した。

ア 名称 機械設計・計測技術研究会
イ 共催 公益財団法人京都技術科学センター
京都府中小企業技術センター
ウ 場所 京都府中小企業技術センター
エ 参加者 関連企業の技術者（13名）
オ 会費 年額10,000円/人
カ 内容

例会	日時	内容
第1回	6月11日(火)	内容：「寸法公差の基本と使い方」 講師：株式会社ラブノーツ シニアコンサルタント 竹之内徹 氏
第2回	7月24日(水)	内容：「形状設計テクニック」 講師：人財技術教育研究所 代表 益田 憲明 氏
第3回	9月3日(火)	内容：「幾何公差の基本」 講師：株式会社ラブノーツ 代表取締役 山田 学 氏
第4回	11月19日(火)	内容：「機械設計者のための電気・電子入門」 講師：京都府中小企業技術センター職員
第5回	1月21日(火)	内容：「CNC三次元測定機の実際」 講師：株式会社メトロテック 代表取締役 榎本 幹雄 氏 株式会社メトロテック 技師 山浦 真 氏
第6回	2月18日(火)	内容：表面粗さ、真円度測定機の実際 講師：アメテック株式会社 熊谷 智晴 氏 アメテック株式会社 西躰 良太 氏

※開催時間は、いずれも10:00~17:00

(3) ものづくり分析評価技術研究会

京都府中小企業技術センターが保有する高度分析装置に関して、最新動向から高度な活用法までを学ぶ研究会を開催した。

2019年度の対象機器は、フーリエ変換赤外分光光度計とレーザーラマン顕微鏡

ア 名称 ものづくり分析評価技術研究会
イ 共催 公益財団法人京都技術科学センター
京都府中小企業技術センター
ウ 場所 京都府中小企業技術センター
エ 参加者 関連企業の技術者（9社・12名）
オ 会費 年額10,000円/人
カ 内容

例会	日時	内容
第1回	9月3日(火)	内容：「分光分析の基礎～赤外・ラマン分光入門」 講師：関西学院大学名誉教授・フェロー 尾崎 幸洋 氏
第2回	10月9日(水)	内容：「赤外分光の基礎と応用」 講師：近畿大学大学院総合理工学研究科准教授 森澤 勇介 氏 関西学院大学名誉教授・フェロー 尾崎 幸洋 氏
第3回	11月19日(水)	内容：「ラマン分光の基礎と応用」 講師：関西学院大学名誉教授・フェロー 尾崎 幸洋 氏
第4回	12月20日(金)	内容：「赤外・ラマン分光のスペクトル解析」 講師：大阪電気通信大学教授 森田 成昭 氏 関西学院大学名誉教授・フェロー 尾崎 幸洋 氏
特別 セミナー	2020年 2月19日(水)	内容：「赤外・ラマン分光の実務とアプリケーション」 講師：関西学院大学名誉教授・フェロー 尾崎 幸洋 氏 株式会社島津製作所分析計測事業部 鈴木 康志 氏 株式会社堀場テクノサービス分析技術センター 沼田 朋子 氏 東レリサーチセンター有機分析化学研究部 村木 直樹 氏 参加者：41名

3 テクノアイデアコンテスト

将来の産業・科学技術の発展を担うベンチャー精神に富んだ起業家や柔軟でユニークな発想を持つ研究者を育成するため、科学技術やものづくりへの関心を高める取組の一環として、高校生や大学生等を対象に、技術に関する独創的なアイデアを募集し、書類審査を経てコンテスト（プレゼンテーションと最終審査）を行い、優れたアイデアを表彰した。

また、特許出願等の相談及び参加者と実行委員・選考委員等による交流会を開催した。

(1) 主催等

ア 名称	テクノ愛2019
イ 主催	テクノ愛実行委員会
ウ 共催	公益財団法人京都技術科学センター 京都大学産官学連携本部
エ 後援	文部科学省、近畿経済産業局、京都府教育委員会、京都市教育委員会、NHK京都放送局、国立研究開発法人科学技術振興機構、日本ベンチャー学会、関西ベンチャー学会
オ 協賛	大阪大学産学共創本部、神戸大学学術・産業イノベーション創造本部、京都工芸繊維大学産学公連携推進センター、大阪電気通信大学、関西サイエンス・フォーラム
カ 協力	京都大学生生活協同組合

(2) 募集等

ア 募集対象	高校の部：高校生、高等専門学校1～3年生 大学の部：大学生、大学院生、高等専門学校4・5年生、専攻科生等
イ 募集期間	2019年6月3日～2019年9月11日
ウ 応募状況	高校の部 18校・120件（学校所在地：青森県～沖縄県の12都府県） 大学の部 9校・38件（学校所在地：神奈川県～兵庫県の16府県）

(3) 書類審査

- ア 選考委員による書類審査で、コンテストに進む高校の部、大学の部各9テーマを選考した。
- イ 上記以外のテーマのうち、書類審査で健闘したと認められた高校の部11テーマ、大学の部4テーマに対し、コンテスト当日の審査で健闘賞を授与することを決定した。

(4) コンテスト等の開催

書類審査で選考された18テーマについて、コンテスト（プレゼンテーションと最終審査）を行うとともに、特許相談及び交流会を開催した。

ア 日時	2019年11月23日（土・祝日） 9:15～16:50
イ 場所	コンテスト：京都大学国際科学イノベーション棟 シンポジウムホール 交流会：京都大学国際科学イノベーション棟 ホワイエ
ウ 入賞	高校の部：グランプリ1件、準グランプリ1件、優秀賞1件、奨励賞6件 大学の部：グランプリ1件、準グランプリ1件、優秀賞1件、奨励賞6件 総合の部：テクノ愛賞1件 ※入賞の内容は、下記一覧表のとおり
エ 特許相談	特許の出願方法等に係る相談
オ 参加者	95名

テクノ愛2019入賞テーマ等一覧表

<高校の部>

賞名	テーマ	学校名	氏名
グランプリ	超音波で物体を動かすー非接触型圧力提示システムの開発ー	奈良女子大学附属中等教育学校	望月草馬
準グランプリ	マイクロプラスチックイーター	山口県立山口高等学校	大塚天誠 関野怜威
優秀賞	【SDGs 課題解決 (No. 14 海の豊かさを守る)】 画像認識を使用した進化型海上ゴミ回収ロボットの製作と研究	追手門学院大手前高等学校	辰巳瑛 小林直樹 マドックス・ジェームス 倉富星衣
奨励賞	溶液受粉専用溶液の開発	青森県立名久井農業高等学校	沢山華奈 榎木平慧 梅田のりか 川守田舞子 熊谷朱音 砂庭亜季 高杉怜那 東さくら 廣瀬晴香 山下明恵 榎本葉月 大向もも香 小泉麻紘 百目木星莉 松本美紀 向山菜月
	つり革でスマホの充電 その2	祐誠高等学校	堤斗来
	ぼっけー 丈夫で自然にやさしい発泡体の開発	岡山県立玉島高等学校	弘中誠勝 吉田拓樹 上田倫太郎 田中志友斗
	ワイヤレス給電「光るニュートンのゆりかご」	祐誠高等学校	辻陽仁 西谷永遠 堤達哉 小西瑞季 田中瑠奈 大坪聖弥 安武大輝
	超音波センサによる視覚障害者の転落防止サポートデバイス	東京都立多摩科学技術高等学校	山本怜花 鈴木一弘 野口陸太
泡散布農薬	青森県立名久井農業高等学校	石塚大城 上長根康平	

備考 奨励賞は、発表順

<大学の部>

賞名	テーマ	学校名	氏名
グランプリ	装飾性と機能性を兼ね備えた小児用動力義手	大阪工業大学大学院	竹本薫生

準グランプリ	スライムでらくらく炭のお片付け～消火も掃除もお手の物！～	福井大学	二川由梨
優 秀 賞	Re:C (リシー)	京 都 工 芸 織 維 大 学 大学院	大前雄也 キムヨンハ 後藤敏樹 田口拓美
奨 励 賞	フロプロ	京 都 工 芸 織 維 大 学 大学院	金子実怜奈 尾持涼介 五井春香 ハフマン恵真 Hadrien Reynaud
	分散系 ER 流体を用いた「Child SavER Seat」	神戸市立工業高等専門 学校	呉羽怜斗 前本剛志
	syn_do: 人との共感を肌で感じるコミュニケーションツール	京 都 工 芸 織 維 大 学 大学院	田中杏佳 光國和宏 土井健太郎 茶谷草汰 中野幹太 古田希生
	立ち上がりテストを簡易化するシステムの提供	福井大学大学院	小野蓮太郎 濱田梓之佑
	離れて暮らす家族の生活がわかるインテリア照明	神奈川工科大学大学院	佐野芳樹 佐野敬大 棟近姫華 一色正男 三栖貴行
	Cross Cut Tape Tester	福井大学大学院	浪江将成

備考 奨励賞は、発表順

<テクノ愛賞>

賞 名	テーマ	学校名	氏 名
テクノ愛賞	超音波センサによる視覚障害者の転落防止サポートデバイス	東京都立多摩科学技術 高等学校	山本怜花 鈴木一弘 野口陸太

健闘賞受賞テーマ等一覧表

<高校の部>

賞 名	テーマ	学校名	氏 名
健 闘 賞	メタノールの綺麗な燃焼法	仁川学院高等学校	本田千紗
	アルギン酸ゲル電極の新規作成方法の開発とその利用	大阪府立和泉高等学校	河野航大 櫻井萌乃 栗山燦 新門直人 瀧田良次
	AI (あい) - Eye (あい) ~知能を持った視線追跡、あなたはどの魚を見ていますか	沖縄工業高等専門学校	古堅飛向 島袋颯馬 平良心輝

健闘賞	パセリスプレーチャレンジ	京都光華高等学校	辻琴音 石田賀与 中島羽櫻
	紐なしブラインド ヒモイランド	堺市立堺高等学校	貝田真名都
	電池レス振るえる見守りセンサ	神戸市立工業高等専門学校	中垣有希人
	自動でたためる傘「タオレーヌ」	京都市立京都工学院 高等学校	清水元太 正田凜太 中村友亮
	新しい野菜の栽培方法を探し求めて～ バブル栽培編～	広島県立広島国泰寺 高等学校	湯川綾
	手袋付きスマートフォンケース	松江工業高等専門学校	桑原歩夢
	書籍（主に参考書など）が自然と閉じな くなる方法	大阪府立四条畷高等 学校	伊藤壮輝 香川龍太郎 福嶋大介 中西柊詞
	電車内の窮屈さを解決する考察	大阪府立城東工科高等 学校	有得哉汰

<大学の部>

賞名	テーマ	学校名	氏名
健闘賞	モノのシェア購入サービス「Warikan」	京都橘大学	河合聡香
	安全歩行「見守る君」	金沢大学大学院	友水豪志
	快適電車	武庫川女子大学	田中樹里
	次世代の育児を支える育児パートナー 「IKU-SUPI」	阪南大学	矢田一馬

(5) 委員会開催状況

ア テクノ愛実行委員会

開催年月日	場所	主な議題
第1回 2019年7月31日	(書面会議)	1 実行委員会委員長の選任について 2 テクノ愛2019開催要領について
第2回 2019年11月23日	京都大学	1 テクノ愛2020の開催日程等について

イ テクノ愛選考委員会

開催年月日	場所	主な議題
第1回 2019年9月13日 ～10月9日	(書類審査)	1 テクノ愛2019書類審査について
第2回 2019年11月23日	京都大学	1 テクノ愛2019最終審査について 2 テクノ愛2019健闘賞の選考について

4 科学館・技術館訪問研修

中学生及び高校生の科学技術への関心を高めるため、夏休み期間を利用して、株式会社川島織物セルコン本社・市原事業所を訪問し、研修会を開催した。

- (1) 名称 2019年度科学館・技術館訪問研修
- (2) 主催 公益財団法人京都技術科学センター
- (3) 後援 近畿経済産業局、京都府教育委員会、京都市教育委員会
- (4) 日時 2019年8月6日(火) 14:00~16:10
- (5) 場所 株式会社川島織物セルコン本社・市原事業所
(京都市左京区静海市原町265)
- (6) 参加者 中学生・高校生及び教員等 24人
- (7) 内容 創業176年の歴史と伝統を基に、織物文化の継承と織物技術を探求する株式会社川島織物セルコン本社・市原事業所を訪問した。

1893(明治26)年、業界で初めて織物特許を取得した先進的な精神を源流に、帯や舞台の緞帳などを扱う「呉服・美術工芸織物」、日本の室内装飾を牽引してきた「インテリア・室内装飾」、「自動車シート開発」等の説明を受けた。

次いで、2班に分かれて、①伝統的な手織りの技法で帯、緞帳、美術工芸織物等を一貫生産している「工芸棟」、②糸染めから高速機械での織り、検反までインテリアファブリックを一貫生産している「生産棟」、③1889(明治22)年に開館した国内最古の企業博物館を再館し、染織品、内外の古書、創業以来製作してきた試織裂、原画類など合計16万点に上る所蔵品を展示している「川島織物文化館」を見学した。

5 おもしろサイエンス

小学生に、科学実験・工作イベントを通じて学び・知り・作ることの喜び、楽しさを体験させ、科学への関心や理解を深めるため、実験教室を開催した。

(1) 主催等

- ア 主催 公益財団法人京都技術科学センター
- イ 後援 京都府教育委員会、京都市教育委員会
- ウ 協力 サイエンスEネット

(2) 開催状況

- ア 名称 おもしろサイエンス2019年度~冬休み実験教室~
- イ 日時 2019年12月26日(木)
午前の部 11:00~12:00 午後の部 14:00~15:00
- ウ 場所 京都技術科学センター1階 B会議室
- エ 参加者 午前の部 小学生22名(親子22組)
午後の部 小学生23名(親子19組)
- オ プログラム リニアモーターカーの解説と作製
リニアモーターカーの基本的な仕組みである電磁力とフレミングの左手の法則について解説した後、真鍮棒によりレールを作り、これを電源となる電池とつなぎ、レールの上に置いた真鍮棒2本に紙製の電車を乗せて走らせた。

6 科学技術情報等提供

ホームページ（HP）を活用し、当センターが実施する事業に関する情報を提供し、応募者や参加者の拡大を図った。また、研究開発助成テーマ、テクノアイデアコンテストの入賞アイデア、おもしろサイエンスのプログラム等を掲載し、啓発に努めた。

その他、当センターの沿革・概要、事業計画・事業報告、収支予算・決算状況をHPに掲載した。

Ⅲ 収益事業

本法人が所有する建物・土地を事務室、研究室、倉庫、収納庫及び駐車場として賃貸するとともに、会議室を貸し出し、その収益を公益目的事業の実施に活用した。

1 施設の賃貸

(1) 利用者増加の取組

貸室の空き情報を、当センターのHPで広報するとともに、不動産仲介業者のHPに掲載してもらった。併せて、施設の環境改善を行った。

- ・トイレの改修（1階西側男女トイレ・地階東側男女トイレ）
- ・貸室の改修・修繕（内装、照明、エアコン、電気設備等）
- ・1階廊下等の床の剥離清掃
- ・A会議室及びB会議室へのWi-Fiの導入

(2) 利用状況（ア～ウは、2020年3月31日現在）

ア 事務室・研究室・倉庫の利用者数	38団体	（平成30年度	38団体）
イ 収納庫使用室数	17室	（同	19室）
ウ 駐車場使用台数	41台	（同	41台）
エ 会議室利用件数	82件	（同	94件）

2 建物・設備等の管理

(1) 主な改修・修繕工事

ア 本館建物外壁塗装等の大規模修繕工事

本館建物の躯体補修・外壁塗装・屋上防水・雨樋取替等の大規模修繕工事を2019年5月～9月に共有者であるマンハイム鴨川管理組合と共同で実施した。

（大規模修繕費 29,979,150 円）

また、本館玄関灯取替工事及び分館外壁等修繕工事を行った。

（大規模修繕費 742,500 円）

イ 本館トイレ・污水管の改修工事

2019年11月に地階東側トイレ、2020年1月～2月に1階西側男子トイレ及び1階西側女子トイレの改修工事を、污水管の更新工事と併せて実施した。

（設備投資 21,543,000 円、大規模修繕費 3,015,600 円）

ウ ポンプ更新工事

老朽化した加圧給水ポンプ及び消火ポンプを更新する工事を2020年3月に実施した。

（設備投資 2,998,600 円）

エ エアコン更新工事

本館1階10号室～13号室のエアコン（合計4台）を更新する工事を2019年10月に実施した。

（設備投資 1,573,000 円、修繕費 88,000 円）

(2) その他の改修・修繕工事

ア 改修工事（設備投資）

- ・貸室照明器具更新（LED化）（387,000円）

イ 修繕工事

- ・貸室内装等修繕（2件、1,569,000円）
- ・照明器具修繕（7件、398,700円）
- ・エアコン修繕（22,300円）
- ・床修繕（2件、110,760円）
- ・ドア修繕（3件、77,112円）
- ・ブラインド修繕（2件、162,000円）
- ・消防用設備修繕（110,000円）
- ・その他（46,200円）

(3) 保守管理

トイレ・床清掃等の日常的な保守管理のほか、次の特別作業等を行った。

- ・1階廊下等の床の剥離清掃（282,960円）
- ・地階西側トイレ汚水管の高圧洗浄（64,800円）
- ・玄関前クスノキの強剪定（69,882円）
- ・光電話等の更新及びA会議室、B会議室等へのWi-Fiの導入
（リース料 月額17,940円）
- ・消費税率の引上げに伴う会計ソフトの変更（無形固定資産の取得 162,000円）

IV センターの運営

1 センターの概要（2020年3月31日現在）

設 立	1942年12月28日	財団法人京都技術科学館として設立
	1960年12月27日	財団法人近畿地方発明センターに改組
	2012年 4月 1日	公益財団法人京都技術科学センターに改組
評議員	12名	
役 員	15名（理事13名 監事2名）	
委 員	研究助成選考委員会委員	6名
	テクノ愛実行委員会委員	7名
	同 選考委員会委員	11名
事務局	常務理事1名、事務局長1名、参事1名	

2 理事会の開催状況

開 催	議 題	備考
2019年度 第1回定時理事会 2019年5月29日	I 決議事項	
	1 平成30年度事業報告の承認の件	
	2 平成30年度決算の承認の件	
	3 2019年度定時評議員会の招集の件	
	II 報告事項	
	1 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況報告について	
	2 建物賃貸借契約者の異動状況について	

2019年度 第1回臨時理事会 2019年8月30日	I 決議事項 1 建物等賃貸規程の一部改正の件 2 会議室等利用規程の一部改正の件	決議の省略
2019年度 第2回定時理事会 2020年3月23日	I 決議事項 1 2020年度事業計画書の承認の件 2 2020年度収支予算書並びに資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類の承認の件 3 2020年度研究開発助成金交付対象者等の決定の件 4 委員、講師等の謝金に関する規程の制定の件 5 個人情報保護管理規程の制定の件 6 個人番号及び特定個人情報取扱規程の制定の件 7 役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する基準規程の一部改正の件 II 報告事項 1 内閣府による立入検査の結果について 2 代表理事、業務執行理事の職務執行状況報告について 3 建物賃貸借契約者の異動状況等について	

3 評議員会の開催状況

開催	議題	備考
2019年度 定時評議員会 2019年6月14日	I 決議事項 1 評議員の選任の件 2 役員の選任の件 3 平成30年度決算の承認の件 II 報告事項 1 平成30年度事業報告について 2 長期ビジョンの実施計画について 3 建物賃貸借契約者の異動状況について	

4 監事監査

開催	内容	備考
2019年5月15日	平成30年度事業報告及び決算の監査	

事業報告の附属明細書

定款第8条第1項第2号に規定する事業報告の附属明細書は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する2019年度事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので作成しない。